



## 子供の自殺、うつ病防げ

# 命の大切さ 絵本で訴え

絵本の読み聞かせを通じて子供の自殺やうつ病を防ぐ「いのちの授業」が31日、牧之原市立菅山小(同市西山寺、増田一雄校長)で開かれた。画家夢ら丘(むらおか)実果さんと作家吉沢誠さんが制作した絵本「カーくんと森のなまたち」を朗読し、全校児童約150人が命の大切さや尊さなどについて学んだ。

## 朗読さんら丘さん 菅山小・牧之原

絵本は主人公のホンガラスのカーくんが友人の長所が気になるあまり、「ぼくなんていなくてもいい」と思い込み絶望的になるが、先生や仲間への支えられ、自分の良さや周囲の愛に気づき次第に元気を取り戻していく物語。夢ら丘さんが原案と作画を手掛けた。

夢ら丘さんは幼少時にぜんそくを持っていたためいじめられた経験や、交通事故の後遺症でうつ病に陥った体験を紹介したほか、絵本を感情たっぷりに読み聞かせた。

夢ら丘さんは「自分が悩んでいる時はカーくんのように誰かに相談してください」とした上で、「人は支え合い、助け合い生きていく。命は掛け替えのない尊いもの。皆の命、友達の命を大切にしてほしい」と周囲の支えの大切さなどを訴えた。6年生の榎林沙弥さん(12)は「絵本の主人公みたいに自分が悩むことがあったら周りの人に相談して、学んだことを生かしたい」と話した。

夢ら丘さんは2007年9月に絵本を出版した後、全国各地で読み聞かせ活動を行っている。自殺が深刻な社会問題となる中、県が小学生を対象に絵本を活用した道徳授業として開催した。

夢ら丘さん(右)による絵本の読み聞かせを通じて命の大切さを学ぶ児童ら  
|| 牧之原市立菅山小